

3学期、アッという間に時間が過ぎる・・・

年末には美術科展、年が明けると、2年普通科修学旅行、気がつくとも早くも2月。今回、放送フェスティバル会場が小野高校から明石高校に変更となりました。第1回～第10回を小野高校で実施し、今回の第11回を明石高校で実施です。できれば今後5年くらいは明石高校で実施できればと思っています。

これは明石高校だけではなく、明石地区の学校にとってはチャンスです。これまで、明石地区からの放送フェスティバル参加が少なく、NHK杯や総合文化祭においても明石地区の高校は苦戦してきました。今回、明石高校で実施したところ、県下30校の参加があり、東播磨・淡路地区だけではなく、遠くは但馬や阪神・但有からの参加もありました。さらには、視覚特別支援学校からの参加もありました。参加人数も約200名と過去最大となりました。また、食堂にも営業していただき、名物の“カツ(勝つ)サンド”は通常の倍以上ご準備いただきましたが、全て完売となりました。「うまい」「おいしい」と好評でした。

フェスティバルではまさに県下放送部の生徒の活気が示されたように思います。明石高校は、コンテストの結果、アナウンス部門“佳作1”、朗読部門“佳作2”となりました。全国上位の常連校も参加する中、よくがんばったと思います。決して油断することなく、6月のNHK杯へ向けてパワーアップして行きたいと思います。

午後は、県放送文化部長大江先生(東播磨高)より「放送部活動に役立つ」研修をしていただきました。放送部でがんばり、現在は放送の現場で活躍しているOBの話、学校行事への取組みなどすぐに活用できるものが多くありました。「すべての道は放送部につながる！！・・・」がんばりましょう！！最後には、Kiss FM K O B Eのサウンドクルー 永田早紀さんから激励の言葉をいただきました。

また、今回の様子はケーブルテレビ明石でも放送されます。「放送部にはテレビに出演するチャンスや新聞に登場するチャンスがある・・・有名人に会えるチャンスがある・・・」その少しのチャンスが将来につながることもあるかもしれません。もちろん、放送部は高校の部活動ですから、日常の学習をキッチリとやることが活動の前提となります。

放送フェスティバルが終了すると、すぐに学年末考査、そして卒業式です。次々と放送部が関わることが出てきます。がんばります。



コンテスト、過去最高の参加



審査員の先生より講評をいただいています。



永田さんより激励を受けました。
NHK杯へ向けてチャレンジです。

明石高校を目指す受験生のみなさん、中学生のみなさん、明石高校に入学したら“放送部に参加”しましょう。少しのことで活躍の場が広がります。